開館25周年記念のコレクション展

今年、田辺市立美術館は1996（平成8）年11月の開館から25周年を迎えます。これを記念する特別展として、当館が活動の主軸の一つにしている文人画をテーマとした「きのくにの三画人」を秋から開催します。これは、近世日本の文人画の世界を、紀州が輩出した三人の画家を中心に据えて紹介するもので、開館当初からの調査、研究の蓄積をまとめてお示しする機会をつくることを意図しています。

当館のもう一つの活動の軸である日本の近代美術については、これまでに収集してきた作品を四つの分野に分けてお伝えするコレクション展を開催して、開館25周年の記念にしたいと考えています。第Ⅰ部と第Ⅱ部を4月から6月にかけて行い、第Ⅲ部と第Ⅳ部を来年2月から3月にかけて開く予定です。

本年度のスタートとなる、この「開館25周年記念コレクション展」第Ⅰ部では、明治期以降に本格的に流入してきた西洋の絵画手法を、日本人画家が受容して自らの表現として描いた「洋画」について、収蔵している作品を通してうかがいます。新たな日本絵画の領域を開拓しながら自己の芸術を確立し、近代美術の主潮の一つを形成した洋画家たちの優れた作品の数々が当館にコレクションされていることを、展示によって改めて明示したいと思っています。

また第Ⅱ部では、近年に形成された、当館の特徴的なコレクションの一分野である、現代の織作家たちの作品を特集します。当館では2017（平成29）年から、高度な織の技術によって独創的な制作を行い、現代の美術表現を切り開いている作家を紹介する展覧会シリーズ、「現代の織」を開催してきています。展覧会の開催とともに、特に秀でた作品、重要な位置を占める作品については、積極的に収蔵を進め、織作品は現在30点を超えるまでになりました。これまでに「現代の織」で取り上げた4人の作家の作品を一堂に展観して、織による造形の魅力と可能性を探りたいと思います。

開館25周年を記念した特別展、コレクション展ともに、これまでの調査と研究、作品の収集と保存の蓄積を基礎として、それらが生み出した成果を、展覧会を通してお伝えし、確認して、今後のさらなる進展を目指そうとするものです。昨年から、新型コロナウィルス感染症による不測の事態が生じていますが、渦中にあって一層、こうした美術館の基本的な活動の重要性があらわになってきているように思います。

（学芸員　三谷　渉）

川口軌外《COMPOSITION》
1957（昭和32）年

久保田繁雄《Shape of Red Ⅰ》
2009（平成21）年

INFORMATION

開館25周年記念コレクション展
Ⅰ.洋画の表現
Ⅱ.織の造形

会　　場／田辺市立美術館
観 覧 料／260円
　　※学生及び18歳未満の方は無料
会　　期／2021年4月24日（土）～6月27日（日）
開館時間／午前10時～午後5時（入館は午後4時30分まで）
休 館 日／毎週月曜日（ただし5月3日は開館）
　　4月30日（金）・5月6日（木）

新収蔵作品について

昨年度は、１点の作品を購入し、５点の作品のご寄贈をいただきました。

購入した作品は、織作家、久保田繁雄（1947～　）の《Shape of Red Ⅰ》（2009年／180×180×h.230cm／立体）で、同じく久保田の作品、《織の回廊Ⅱ》（2000年／210×445cm／タピスリー）をご恵贈いただきました。2点とも、2017（平成29）年に開催した「現代の織Ⅱ　久保田繁雄」に出品していただいた作品で、いずれも近年の制作を代表するものです。これまでも久保田の作品は収蔵してきていましたが、今回の追加によって、その芸術をより深く伝えてゆくことのできるコレクションが形成されたものと考えています。《Shape of Red Ⅰ》は、サイザル麻と化学繊維の対照的な質感、発色が幾何学的な立体造形のうちに統合されるユニークな作品です（上欄の「開館25周年記念コレクション展」に図版掲載）。《織の回廊Ⅱ》は、久保田が初めて金糸、リネン麻糸を用いた作品で、透かし織と前後二重の構造によって、イタリアで接した建築と光の印象が鮮やかに造形されています。

この他にも水彩画家、中西利雄（1900～1948）の作品、《紅葉》（1938年／50.3×63.2cm／額装　※右の図版）、原勝四郎（1886～1964）の油彩画、《静物》（1938年頃／12.5×15.9cm／額装）、《静物》（1955年頃／22.0×27.0cm／額装）、《バラ》（1955年頃／27.0×21.9cm／額装）をご寄贈いただきました。

中西の作品も、2004（平成16）年に開催した「中西利雄展」に出品していただいたもので、当時所有されていた方のご遺族から、展覧会時の記録をもとにご連絡をいただいて、当館に収蔵するというご厚志に与ることとなりました。第３回新制作派協会展で発表された作品で、中西の不透明水彩絵具によるモダンな作風が、日本の古典的なモチーフに活かされた、充実した風景表現です。

原の作品は、いずれもこれまで未見だったものですが、それぞれ壮年期と晩年の静物表現をよく伝えてくれるもので、保存状態も良好でした。原と交流のあった肉親から引き継いだ作品を、大切にされてきたお二方のご寄贈のお申し出をいただきました。

昨年度も、当館の調査、研究、展覧会活動を通して、作品ご恵贈の芳心をお寄せいただき、コレクションの層を深めることが出来ました。当館の活動にご理解をいただき、ご支援いただきました方々に、改めて深く感謝申し上げます。

（学芸員　三谷　渉）

中西利雄《紅葉》
1938（昭和13）年

高橋周桑のモダンとロマン

高橋周桑（本名は千恵松）は、1900（明治33）年に愛媛県周桑郡庄内村（現在の西条市）に生まれた日本画家です。けして早くから画家を志望していたわけではなく、幼少期に一家で九州に移住し、炭鉱や農園での労働に従事するかたわらで接した、速水御舟（1894～1935）の作品評と作品図版に感銘を受けたことが、絵を描き始めるきっかけでした。

芸術家への憧れを募らせた高橋は、御舟に弟子入りを志願する手紙を送り続け、20歳のときに上京して師事することを許されます。間もなく生活をともにして修業を重ねるようになり、生地にちなんだ号「周桑」を御舟からもらいます。入門から７年経った1928（昭和３）年、日本美術院展（院展）に初入選し、２年後には日本美術院賞を受けて院友となり、順調に画家としての歩みを進めました。やがて、銀座のショーウィンドウや競走馬を作品のモチーフにするなど、モダンな感覚を日本画に取り入れてゆくことを志向して頭角を現します。

1935（昭和10）年に御舟が 40歳の若さで没してからは他に師事することなく、独自の道をゆき、御舟の遺品の整理にも尽力しました。

戦後再開した院展で、周桑は無鑑査となりますが、1948（昭和23）年に山本丘人（1900～1986）、上村松篁（1902～2001）、福田豊四郎（1904～1970）ら、主に官展で活躍していた同志の画家たちと「創造美術」を旗揚げして日本美術院を離脱し、新しい時代の日本画創造を目指して自身の表現を展開してゆきました。ただし周桑は、絵具を厚く塗りこめて面的な表現を追求してゆく画家が多かった中にあっても、淡い色彩と線の妙味を保ち続けました。晩年の周桑は、「どぎつい原色を塗りたくった絵が多い今日、夢みたいな絵があってもいいじゃないか」と、その胸の内を語っています。

近代的な造形と情感の表出とを結びつけることに腐心し、舞台衣装や舞台美術を手掛けるなど、制作の幅も広げていましたが、志半ばにして病に倒れ、1964（昭和 39）年、周桑は 63年の生涯を閉じました。

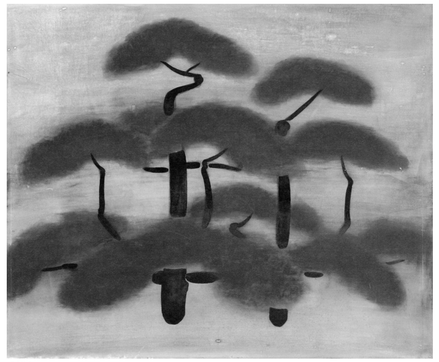
昨年、生誕120年を迎えた高橋周桑の画業を振り返る展覧会を、今夏、当館と浜松市秋野不矩美術館との共同で開催します。

（学芸員　三谷　渉）

INFORMATION

生誕120年　高橋周桑－モダンとロマン－

会　　場／田辺市立美術館
観 覧 料／600円
　　※学生及び18歳未満の方は無料
会　　期／2021年7月17日（土）～9月12日（日）
開館時間／午前10時～午後5時（入館は午後4時30分まで）
休 館 日／毎週月曜日（ただし8月9日は開館）
　　8月10日（火）



《松》1954（昭和29）年　　愛媛県美術館蔵

追悼：タピスリー作家潮隆雄

1998（平成10）年３月８日、「Tapestry 潮隆雄展」の開催を記念した公開対談の後、展示室で再び作品について語り合う、潮隆雄さん（左）と上山春平名誉館長（当時）。二人とも鬼籍に入られた。

潮隆雄さんと接するようになったのは、1998（平成10）年に開催した「Tapestry 潮隆雄展」の準備を通してだった。1996（平成８）年の開館から間もなくのことで、足取りのまったく頼りない、工芸の分野に恐ろしく疎い私のことを、一人の学芸員として応対してくださり、展覧会が実を結ぶまで、絶えず支援してくださったことは忘れることができない。その後も、ご自身の専門とされる染織を軸に、現代工芸の領域、延いてはそれを通してみる美術について、長く温かく導いてくださったことは、言葉につくせない恩であり、私のかけがえのないものとなっている。

少しずつ自分でも工芸の世界を見渡せるようになり、「現代の織」と題した展覧会シリーズを開始することを考えてご相談したときも、協力を惜しまない旨で背中を押していただいた。2017（平成29）年から、潮さんの特集を皮切りにこのシリーズはスタートし、今に至っている。世界に通じる日本の織作家たちの制作を紹介し、作品をコレクションして次世代に伝えてゆくことが、何よりの恩返しだと思って取り組んでいたのだが、その始まりしかご報告することができなかった。よもや、この4月からの開館25周年記念コレクション展「織の造形」での作品展示が、追悼のものになろうとは思いもよらないことだった。

御魂は、あれほど懐かしがられておられた、故郷の海、山を存分に駆け巡られただろうか。これからも郷里の美術館のことを見守り続けてほしい。ご冥福をお祈りいたします。

（学芸員　三谷　渉）

改修工事が終わりました

田辺市立美術館（本館）は、昨年の９月末からおよそ半年間の休館期間をいただいて設備の改修を行ってきました。
主となった、展示室１・２の照明設備の改修、防火・防犯扉の修繕も無事に完了し、良好で安全な展示環境を整えることが出来ました。
この環境を活かして、開館２５周年からの活動を一層充実したものにしてゆきたく思います。皆様のお越しをお待ちしています。

展覧会スケジュール

2021年度

■田辺市立美術館

- 4月　展示替のための休館
- 5月　①開館25周年記念コレクション展　Ⅰ.洋画の表現　Ⅱ.織の造形　4/24(土)～6/27(日)
- 6月　展示替のための休館
- 7月　②特別展　生誕120年　高橋周桑－モダンとロマン－　7/17(土)～9/12(日)
- 8月
- 9月　展示替のための休館
- 10月　③開館25周年記念特別展　紀の国わかやま文化祭2021　特別連携事業　きのくにの三画人　監村兄弟の文人画コレクションを中心に　Ⅱ.桑山玉洲　11/3(土)～12/19(日)　展示替のための休館
- 11月
- 12月
- 1月　Ⅲ.野呂介石　12/25(土)～2/6(日)　展示替のための休館
- 2月　④開館25周年記念コレクション展　Ⅲ.日本画の革新　Ⅳ.水彩画の展開　2/19(土)～3/27(日)
- 3月

■熊野古道なかへち美術館

- 4月　展示替のための休館
- 5月　①小企画展　鈴木理策　4/24(土)～6/27(日)
- 6月　展示替のための休館
- 7月　②特別展　現代の織Ⅴ　中野恵美子　7/17(土)～9/12(日)
- 8月
- 9月　展示替のための休館
- 10月　③特別展　紀の国わかやま文化祭2021　特別連携事業　土屋仁応　森の神話　10/2(土)～11/28(日)
- 11月
- 12月　展示替のための休館
- 1月
- 2月　■くまびで作ろう①を予定しています。講師のアーティストと参加者が一緒になって作品をつくるワークショップです。作った作品は展示して公開します。
- 3月

←たてかき